

“水の事故防止”について

毎日、毎日、大変な暑さを伝えるニュースが報じられ、またそれに合わせるかのように子どもたちの水の事故を伝えるニュースも見聞きするようになりました。

この悲しいニュースを聞いたたびに、悲しくて暗い気持ちになってしまいます。

子どもにとっての水遊びはとても楽しい活動の一つとしてご家庭や園でも重要な活動であると思いますが、生命の危険にも直接結びつく活動の一つとしてご家庭や園での活動中も気が気ではない思いをされているかと存じます。

また、保護者や教職員による監視のしかたや事故が起こった時の対処法等の危機管理にも工夫や普段からの確認や訓練が必要です。

園での水遊びなど、水に関する活動において最も重要な目的である“水に慣れる”危機に面した時に、“自分で対処できる方法”を身につけるという事を普段からご家庭でも実践して頂く事も必要かと思われます。ご家庭でもできる水慣れの方法を列挙してみました。園においては保護者の皆様へのお手紙等に掲載して頂く事で一助となれば幸いです。

(その他加筆及び修正可)

① 洗顔時や入浴時の水慣れについて

朝の洗顔時に濡れたタオルで顔を拭く事をやめ、出来るだけ水を掛けて洗顔する習慣を身につけましょう。

入浴時や洗髪の時も少しずつ顔に水が掛かるよう練習します。

ただしその時は鼻ではなく口で呼吸が出来るよう声掛けと練習をして下さい。

② 蝶々浮き

親子でプールへ行った時は絶好のチャンスです。

子どもを水の上で仰向けに浮かせ、親は子どもの後頭部をしっかり持ちます。

(それでも怖がるようなら腰のあたりにも手を添えて下さい)子どもの目を見て、常に声を掛けながら、脱力させた状態で水に浮く事を体感させます。

場合によっては手で耳を抑え、水が掛からないよう安心させてあげる事も必要です。

子どもは水に浮いた状態で手を蝶々のようにひらひらとする事によって水の上を進めるようになります。

③ だるま浮き(伏し浮き)

水の上でうつぶせになり、体操座りのように膝を抱えた状態で脱力します。

その状態から両手、両足を伸ばし、手でプールの底へ水を抑えるように動かし、同時に膝を自分のお腹に付けるよう曲げることで体を真っ直ぐに立たせる事が出来ます。

だるま浮き(伏し浮き)も蝶々浮きも水の中で何かあった時には慌てないで「脱力すれば水に浮く事が出来る」という実感をする事が出来ます。

④ ボビング

子どもが水を怖がる理由の一つに、水を飲んでしまう恐怖があります

水を飲まないようにする為には鼻ではなく口での呼吸をする事が大切です。

水の中で口から息を吐き「ブクブクー」、水上に出た瞬間に「パッ」と大きな声を出して息を吐く、そうすることで水が口の中に入らないように無理なく息を吸う事が出来ます。水中に顔をつけ、ボビングをしながら手をプールの床について足をのばすワニさん歩きが出来るようになれば、自分で顔を上げることができ、浅い水位でのプールの事故は防ぐ事が出来るはずです。

また足のつかないような深い水位の場合でもジャンプをしながらボビングをする事によって呼吸の確保や助けを求める声だしをする事が出来ます。

普段の水遊びからこのボビング(ブクブクーパッ)の癖をつける事はとても大切な練習の一つです。

【事故防止・事故対処マニュアル】を作ってみましょう。

もしもに備え、園でも「事故防止のためのマニュアル」と「事故対処マニュアル」を作ってみましょう。

そして常に教職員全員が共通理解できるよう何度も話し合いと訓練を繰り返し、マニュアルの改訂をしましょう。

マニュアル自体が有る事は勿論ですが、そのマニュアル通りに教職員が本当に動けるのか、またそのマニュアルの内容で十分なのか、何度も現場で検証し、現場で話し合う事が大切です。

水の事故は1年中、水位が10Cmもあれば起こる可能性があります。

その事故が起きないよう、また起きた時にいかに素早く、的確な対処が出来るかが大切です。

上記の内容に共通する事は、「水の中で何かあった時に」子ども自身が、慌てないようにする習慣を身につけさせることと、事故が起きた際に周りの大人も慌てないで確実に対応する事にあります。

危険を回避する習慣と実際の行動は、「気にずれば出来る」から「無意識にできる」レベルへ引き上げることですべての事故防止はかなりの確率で上げる事が出来ると信じています。

下記アドレスにプールでの事故の紹介や監視の仕方等に参考になる記事が掲載されています。[プールでの死亡・重大事故のまとめ \(poolkansi.com\)](http://poolkansi.com)

文責:古川光男